

日本の子供たちの為に考える私の英語教育の指針

平成23年度から小学校義務教育に英語が正式採用されました。

今まさに英語教育の黎明期と云っても過言ではありません。

長年に亘って唯一“English Primary School Method”「英国小学校で教えているそのままの教育方法」を実践している私の学校では、日本の小学校英語活動の指導目標にある「国際理解」「コミュニケーション能力の育成」「日常生活の具体的な事柄の使用」を考慮して作られている「児童英検」ブロンズ・シルバー・ゴールドの各レベル(3才から12才まで)において、毎回すべて全国平均を上回る成績をあげています。

英語力を伸ばすには、幼児期(3才位)からのスタートが大切です。なぜなら英語独特の音韻・音素を聞き取る能力がこの時期にはまだ損なわれていないからです。やがて成長にしたがって臨界期がおとずれ、不必要な能力(英語力)は捨て去られ、不可欠な能力だけが強化されます。

幼児期の言語を習得する能力には時間的制限があり、境を過ぎてしまうと語学を習得するには、多大な努力が必要になるのです。それらの理由をふまえると、年少期から英語に触れるということは、のちのち、英語力に有利になると云えます。

イギリスには、民族・文化の異なる子供たちが多く暮らしています。公用語はもちろん英語です。それら異文化の中の子供たちは小学校に入学すると、英語を「フォニックスメソッド」(英語の発音は整合性が解りにくく、それらの規則性を見出し、解り易く学習させる方法)で上達していくのです。

本来、園児クラスは小学校入学にそなえて用意をするためのものです。

普通は幼稚園で、算数・読み方・初歩の科学を遊びながら学びます。そうして次の段階への準備がされるわけです。ところが英語に関しては、今のところ、日本では、何の準備もされていないのが実情です。

そこで当校では英語を日常語とする先生たちが、一緒に歌ったり、ゲームを楽しみながら、アットホームな英語環境作りを心がけています。

直接イギリスから教材や備品(ゲーム類など)を定期的に取り寄せ、日本の子供たちの為の情操教育の一翼として日々奔走しています。

遊びと喜びを通して子供たちは沢山の単語を覚え、さらに、それらに英文法を取り入れ会話にしていくのです。また将来、受験や試験などで萎縮しない自信に満ちた正しい英

文法を学んでいきます。英語ゲームでは飽きもせずと同じ事が繰り返されますが、これはとても重要なことです。子供たちは仲良く切磋琢磨していくのです。

子供たちは習うことが大好きです。

勉強をしたいという意欲を妨げるのは、失敗することや知らないで答えられないことが“恥ずかしい”と感じてしまうことです。自分には必ず「出来る」のだという確信を持たせる必要があります。

日本の中学校ではじっくりと教えられず自信のないままテストで評価されてしまうので、英語は一つの科目となり、生きた言葉ではなくなってしまいます。私は、子供たち全員が英語を話す能力、そして英文法がどのような仕組みに成り立っているのかを理解する力が有ると確信しています。近い未来において本末転倒だけは避けたいものです。

私達はいそぎません。矢継ぎ早に詰め込みをする以前に、子供たち一人一人がどのように理解し、学んだ知識を活用できるか確認し、よりよい方向へと軌道修正をしていかなければなりません。その結果、子供たち自身が成し遂げた業績は素直に賞賛してあげ、そして、彼らが自負の念を抱くように教え導くことが理想的な私たちです。

これらがマティ英会話学校のコンセプトです。思い起こせば私なりにイギリスの優秀な学校の考え方を参考にして取り入れたのですが、幸い私が教育を受けた大学では卓越した教授がこうした考えについて講義をされただけでなく、実践されておりました。私はずっとこの考えに賛同し従ってきました。その結果の成功例というには少し大袈裟になってしまいますが、10才～11才で英検5級に全員が受かりました。試験対策など皆無に均しく、代わりに英語ゲームで遊び、プロジェクトを楽しみました。また朗読、合唱、演劇など楽しみながら英語を理解したのです。

最後に私の信念と希望は、教える子どもたち全員が英語に対して安心感と熱意を持って成長を遂げ、上級学校で困難な場面に遭遇しても、初志貫徹を忘れずに切り抜けて欲しいということです。

英語を話す事は日本の子供にとって易しいことではありません。私とても、長年の経験を積んだとはいえ、まだその「鍵」を握ったとは云えません。今でも新しい方法を発見したり、気が付いたりを繰り返しています。これからも研究を継続して常に斬新なアイデアでメソッド、プロジェクトを取り入れるように心がけていきます。

Mati Hagihara